

## 平成 29 年度第 1 回総合教育会議会議録

### 開会及び閉会の年月日時

開 会	平成 30 年 2 月 14 日午後 5 時 30 分
閉 会	平成 30 年 2 月 14 日午後 6 時 42 分

### 会議に出席した者の職及び氏名

出席者	市 長 : 阪 口 伸 六 教 育 長 : 佐 野 慶 子 教 育 委 員 : 西 中 隆 教 育 委 員 : 西 村 陽 子 教 育 委 員 : 吉 村 文 一
教育委員会 事務局職員	教 育 部 長 : 木 寄 茂 巳 教 育 部 理 事 兼 次 長 : 細 越 浩 嗣 教 育 部 次 長 兼 社 会 教 育 課 長 : 村 田 佳 一 教 育 総 務 課 長 : 西 川 浩 二 学 校 教 育 課 長 : 吉 田 種 司 こ だ も 家 庭 課 長 : 家 村 美 雪 子 育 て 支 援 課 長 : 小 林 弘 典 教 育 総 務 課 長 代 理 : 上 田 麻 紀
市長部局職員	政 策 推 進 部 長 : 石 坂 秀 樹 政 策 推 進 部 次 長 兼 総 合 政 策 課 長 : 浅 岡 浩

### 議題及び議事の要旨

#### ・協議事項(1) 平成 30 年度教育委員会重点課題について

教育総務課長	学校給食公会計化について説明する。 学校給食費公会計とは、現在、各学校で管理している給食費を地方自治法に基づき適正に管理し、徴収業務を市で行うというものである。本市では、平成30年度に策定される文部科学省のガイドラインに沿って移行の検討を進めていく。大阪府内で既に導入している市などにお聞きし、公会計の目的や効果、給食費の口座引落とし銀行を選択できるなど、保護者の利便性が向上することを丁寧に説明していく必要があると考えている。
阪口市長	これは既に先行して実施しているところがあるのか。
教育総務課長	大阪府下において、大阪市や豊中市、茨木市、摂津市、大東市、富田林市などで実施している。
西中委員	現在、給食費の徴収については、学校の教職員が行っており、学校の教員は、教育以外に様々な事務等が、世界的な調査でも非常に日本の国は多いようで、PTAの会費から学校給食費から色々な子どもたちに係る諸費を教職員が徴収するという形が定着してきた経緯があるが、そういう意味でこの公会計化というのは、教職員の負担軽減に非常にありがたいことで、ぜひ実施していただきたい。 ただ公会計化となると、役所の仕事が増えると思うが、その辺の課題等を教えていただきたい。
教育総務課長	学校給食費の徴収管理を一括して行うことになるので、それに関するシステムを導入・運用していく経費が発生すること。また、市職員にシステム管理や債権管理の事務がふえることになる。
西中委員	初期の課題をクリアしたらあとはスムーズにいくということか。
木寄教育部長	制度設計、それから保護者の方や関係者に目的等も含め丁寧に説明をし

	<p>た上でシステム導入しなくてはならない。それから実際に運用していく上で先進市に事務教示をいただいた事例などを参考にしながら、適切に進めていきたいと考えている。</p>
西中委員	<p>先進市において、保護者の反対などはあったのか。</p>
木寄教育部長	<p>現在、学校給食費は、各学校で管理をしている通帳にて引落とししている。公会計化によって、市の債権管理となるので、原則市の指定金融機関の本店・支店と幅が広がり、他市の最新の事例を聞いても大きな反対はなかったと報告を受けている。</p>
阪口市長	<p>市において、初期の投資である、一定のシステムあるいは債権管理という事務が増加するが、西中委員がおっしゃったとおり、学校教職員の現場の負担を少しでも軽減できることはメリットの一つであると感じている。</p> <p>さらに、保護者の利便性も向上する。</p> <p>無論、新しい制度を導入する場合は、保護者への丁寧な説明が必要であるが、最終これが決定すれば教育委員会で学校とも連携しながら、理解を得られるように公会計化を進めていただきたい。</p> <p>続いて、学力向上に向けての取り組みの充実について、事務局から説明をお願いしたい。</p>
学校教育課長	<p>小・中学校の学力について、今年度の全国学力・学習状況調査結果は既に広報たかいし及び教育委員会のホームページにて公表している。小・中学校ともに改善傾向が見られる結果となっている。</p>
西村委員	<p>小・中学校ともに改善傾向が見られる結果ということであるが、結果についてももう少し具体的にどのような分析をしているのか、説明をお願いしたい。</p>
学校教育課長	<p>本年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析・考察した結果について、昨年度より小・中学校の国語、算数、数学のどの区分においても全国との差が縮まっている。これは小・中学校で推進している習熟度別授業を取り入れた少人数指導によるきめ細やかな指導や小・中連携推進支援事業を通して9年間を見通した日々の授業改善の取り組みに成果が見られたものであると考えている。今後も引き続き各学校と教育委員会が連携し、児童生徒の学力向上を目指した取り組みを進めていきたいと考えている。</p> <p>しかし、課題として記述式の問題における誤答率、無回答率の高い傾向が見られる。筋道を立てた思考をして、自分の考えを書く力を身につける必要があると考えている。そのため、日々の学習指導の中で目的や意図に応じ自分の考えを伝えるように書く活動、事柄の特徴、数学的な表現を持って書く活動等、効果的な言語活動や学習活動を充実させ、表現力の伸長を目標とした取り組みを進めていきたいと考えている。</p> <p>この学力向上に向けては、府費負担による加配教員に加え、市費単費による非常勤講師を配置し、児童生徒にとってわかりやすい授業、わかったという達成感が得られる授業を実施している。その成果が出てきていると考えている。全国学力・学習状況調査の質問紙における授業がわかりやすいという項目の肯定的な回答も上昇している。</p>
佐野教育長	<p>学力向上に向けた取り組みの実施について、具体的な説明をお願いしたい。</p>
学校教育課長	<p>学力向上については、各小・中学校において学力向上大作戦として計画的に学力の向上への取り組みを進めている。中学校においては、高石っ子まなび舎事業として放課後学習にも取り組んでいる。</p> <p>また、各校に導入したタブレット端末の活用を進めており、タブレット端末を活用した授業改善について、小・中学校から教員を募集し、チームをつくり研究と実践に現在努めている。</p>
西村委員	<p>学力向上というのは一朝一夕にならないので、地道な取り組みが大事であると思う。そのためには、人的な予算や設備的な予算も必要になると思うので、市においてそのような予算をつけていただき、また、教育委員会としても現在の取り組みを地道に継続していくことで、子供たちの学力が</p>

	向上できるように努めていきたいと思う。
西中委員	学力向上で特に全国的に優秀な成績をおさめている福井県の話であるが、先生が互いに教え合うという気風を一番に取り上げていた。先輩の教員が後輩を指導するというシステムが重要であると書かれていたのを目にしたが、高石でも若年の先生方が多くなっているが、高石にもそのようなシステムはあるのか。
細越教育部理事	福井県や秋田県もそうであるが、いわゆる指導力の高い教員の育成というのが一つのテーマであり、本市においても指導力を高めていかないといけないということで、一昨年からS I S T事業という形で、学校教育課に在籍している教科指導する上で非常に優秀な指導主事が、小学校に巡回指導している。その巡回指導の中でモデル授業を行い、その授業をもとに教員に授業展開の指導を行い、更に今度は教員が授業を行うというような授業を展開している。 これによって、非常に校内研修が活性化され、教員の授業力向上に非常につながっていると考えている。本市でも若い、授業が未熟な教員を育成するシステムを現在実施している。
西中委員	先輩が後輩を指導する気風があるということか。
細越教育部理事	そのとおりである。
西中委員	育ってきているというのは、ありがたい。
阪口市長	次の課題、小・中学校における英語教育の推進について、事務局から説明をお願いしたい。
学校教育課長	本市においては、平成25年度より教育課程特定校の認定を受け、通常小学校5・6年生で行う外国語活動の授業を小学校1年生から実施している。小・中学校においてコミュニケーション能力の育成を図るためにALT、外国人による英語指導助手を配置している。外国語の活動の授業を小学校1年生から実施し、発達の段階に応じ英語になれ親しむ活動を展開している。 また、ALTを配置し、ネイティブな英語になれ親しむ活動の充実に努め、小学校に中学校の英語教員免許所持者を市費で非常勤講師として配置するなど、英語教育に積極的に取り組んでいる。 その成果として、本市で平成28年12月に実施したアンケートによると、外国人と英語を使って話せるようになりたいという回答をする児童が全学年で70%から80%近くになり、平均77%となっている。また、英語の勉強が役に立つと思うと回答する児童についても平均で90%に達しており、本市の子供たちの英語学習への関心の高さがうかがえる。 また、中学校において毎年英検I B A、これは英語能力判定テストであるが、中学校1年生で5級レベル、中学校3年生で3級レベルを実施している。その結果、中学校1年生では英検5級程度の生徒が69.2%、中学校3年生では英検3級程度以上の生徒が39.5%となっている。これは昨年度と比べても中学校1年生で12.2ポイント、中学校3年生で9.2ポイントの上昇ということになっている。 今後ともこの英語活動について、学習指導要領の改定等もあるが、本市において重要施策として取り組んでいきたいと考えている。
西村委員	判定テストの結果ということで、目に見える形で結果が出て、非常に子供たちの励みや目標になると思う。来年度以降も引き続きこの数字をさらに上乗せできるよう、英語教育に力を入れていただきたい。
佐野教育長	この英語能力の判定テストの達成率であるが、開始した平成26年度は45.6%、これが今69.2%になっている。中学校3年生の3級レベルは、平成26年では30.5%であったのが、平成29年度では39.5%と上昇しており、予算をつけていただいて感謝している。 先ほど理事からも説明があったように、指導主事が現場で模範授業をすることは非常に難しいことであるが、高石市ではそれが実現できているということで、私も非常に喜んでいる。今後も頑張っていきたいので、よろ

	しくお願いしたい。
西中委員	A L Tによるネイティブな英語を教えてもらうことも非常に大事であると思うが、小学校においてもいわゆる教科英語ということになるわけである。そうなったときには、日常的にいわゆるA L Tではない一般の教員が英語を指導しなければならないわけであり、一般の教員の英語力についての研修について、何か特に計画して実施していくものはあるか。
学校教育課長	英語指導については、府の教育委員会もかなりの回数の研修会の開催を予定している。本市においても、英語担当者会を多数開催し、それが各学校の全ての教員に伝わるような形で研修を広げていくよう進めている。 その中で、外国語の授業は担任が行うことをベースに我々も考えているので、今後ともその研修についてはしっかり実施していきたいと考えている。
阪口市長	好調ということで非常にいい話であると思う。何より英語にもっと触れたいが77%、あるいは役に立っていると思うというのが90%、非常に子供たちがポジティブに受けとめ、やらされている感がなくてよいと直感的に感じた。 学習指導要領で本市が先行し、特例校を受けて小学校1年から実施しているが、新しい学習指導要領においてはどうか。
細越教育部理事	今までは小学校5・6年生しか実施しておらず、平成32年からは小学校3・4年生も1時間、外国語活動が入ってくる。ただ、小学校1・2年生については実施をするのはまだ全国ではなく、これについては引き続き特例校を申請し、小学校1・2年生から実際に今の形を続けていきたいと考えている。
阪口市長	非常に先進的でよかったと本当に思う。それに後から国が追いかけてきている感じがあり、やはり方向性は正しかったと思うので、この調子でいいところはどんどん伸ばしていただきたい。 続いて、次の課題である幼稚園におけるA L T、外国人英語指導助手の活用という考え方であるが、事務局より説明をお願いしたい。
学校教育課長	先ほども話題となった外国語活動であるが、教育課程の特例校として小学校1年生より本市はこれからも取り組んでいく。これまでも英語の活動についてはそれぞれの幼稚園で実施しているところであるが、来年度からは小・中学校に配置しているA L Tを公立幼稚園にも派遣し、公立幼稚園の特色ある取り組みとして幼児期から英語、外国語に親しむ活動に取り組んでいきたい。 英語に親しむ活動については、現在、私立のこども園においてもネイティブの方による活動を実施している。英語の歌や遊びを通して楽しみながら英語に親しんでいる。保護者から英語活動実施へのニーズの声も高く、保護者からの評判も好評と聞いている。 また、公立幼稚園においても、保護者のニーズや小学校入学以降の英語教育への円滑な接続に向け、楽しみながら英語に親しむ活動に取り組んでいきたいと考えている。
西村委員	現在でもそれぞれの幼稚園で英語活動に取り組んでいるということであるが、この前、加茂幼稚園に訪問したときにボランティアの方が英語活動をし、子供たちが英語活動を楽しんでいるという話を聞いたところである。 さらにきちんと制度的に外国人のネイティブの英語の指導助手が入ると、さらに子供たちが外国語に親しむことができると思うので、ぜひ今後の加茂幼稚園の特色としてこういう活動を進めていただきたいと思う。
吉村委員	英語に幼いころから親しむのは非常によいことであると思うが、ただ日本人の挨拶は、朝はおはようございます、夜はおやすみなさいで、あまり度を過ぎて英語ばかり、朝はハローや、ありがとうございますはサンキュー等になれば、見づえが悪いので、行き過ぎた指導は注意していかないといけないと思う。やはり日本語の大切さもあわせて指導していきたいの

	で、現場の声も十分聞いて指導していきたいと思う。
阪口市長	<p>既に私立の幼稚園やこども園が先行しているが、日本語をしっかりと理解した上で英語という風にしないといけない。</p> <p>また、公立幼稚園だけではなく高石市内全域で、私立の幼稚園あるいはこども園、ここにも高石の市民の子供たちが通っているので、そのバックアップも子育て支援課になるのか、しっかりとやっていただきたいと思う。</p> <p>特に加茂幼稚園については、去年は遊具の更新を行い、さらに園舎の工事、平成31年度に向けて通園バスという流れになっているので、ハード面とソフト面の整備についても、応援していきたいと思っているので、十分協議・検討していきたい。</p> <p>続いて、インクルーシブ教育について説明をお願いしたい。</p>
学校教育課長	<p>障害者差別解消法の施行、インクルーシブ教育の推進に基づき、障害のある児童生徒が障害のない児童生徒とともに学び、ともに育つことができるよう、その児童生徒に応じた合理的配慮の研究を進めているところである。障害のある幼児、児童生徒の自己肯定感、自己有用感を高め、地域の中で生活し、積極的な社会参加ができる素地を備えた子供を育てること、家庭や学校、地域における良好な人間関係の体験を積み重ね、周囲の人々に受け入れられているという他者に対する基本的な信頼感を獲得できること、学校生活における日々の授業を通じた達成感を積み重ねて自分にもできることがあるという自己肯定感を体験しチャレンジ精神を獲得させるとともに、交流活動で他者のために行動して注目される、頼りにされる、感謝される等の体験を積み重ね、社会における自分の存在意義を確認できることを取り組みの目的として実施している。</p> <p>現在、羽衣小学校、東羽衣小学校、高揚小学校に合理的配慮協力員として1名ずつ配置している。通常の学級担任、支援学級の担任と連携しながら子供同士のコミュニケーションを円滑にするための配慮や、学校生活における集団づくりを円滑にするための配慮をしながら支援をしているところである。</p> <p>また、これらを配置している小学校においては、より専門的な合理的配慮が提供できるよう、大学から専門家を招き指導・助言を受けて教職員の資質向上も図っているところである。</p>
吉村委員	<p>インクルーシブな教育ということで、普通学級の中で学習をしたい障害者もしくは学習に時間がかかる子供たちについて保護者の意見もある反面、支援学級のように手厚く教えてほしいというニーズも両方ある。指導を間違い逆の方向へ進んでしまえば、今問題になっている不登校や、いじめにつながっていくと思うので、インクルーシブ授業で普通学級の児童と変わりなく学習できる環境が非常に大切であるが、やはり支援学級のように手間をかけてあげる必要がある子供もいるので、どの児童がどちらに合っているかを現場の教諭たちが十分見て指導していかないといけないと思うので、さらなる研究を進めていっていただきたい。</p>
佐野教育長	<p>支援学級入級等についての保護者の方の指導について、具体的にどのようなにしているのか説明いただきたい。</p>
学校教育課長	<p>就学相談指導といい、指導というか、相談に乗っている。年度が変わると次に入ってくる1年生の心配する保護者がたくさんいる。その中でできる限り2人体制で指導主事が丁寧にお話を聞き、その子供さんに合った形、特性を理解しながら相談に応じている。ただその中で、最近では障害について理解も非常に進んでおり、保護者からぜひ支援学級に入級したいとの申し出もある。その中で本市においても支援学級の在籍者が非常に増加している状況もあり、設置学級数も増加しているという状況である。</p>
佐野教育長	<p>最終的には保護者の意見も尊重し入級指導しているということではよいか。</p>
学校教育課長	<p>その通りである。保護者の意見、その中で特別支援学校を選ばれる方、</p>

	支援学級を選ばれる方、また普通学級を選ばれる方、また、通級指導とい い別室で少し手厚く学習するという方法もあるので、その説明も十分に行 い保護者の理解を得ながら、どちらに在籍するかを考えていくという形で 相談に乗っている。
西中委員	インクルーシブ教育での終極の目的は、私はやはり社会に出て健常者と 同じような生活を、適切な配慮を得ながら差別を受けずに全く同じような 生活ができる、いわゆるノーマライゼーションという理念が基本になると 思う。 今、吉村委員から心配があった障害者が自分の障害を克服して健常者と ともに生きるという、あまり配慮が行き過ぎると、社会に出て生活できな いという形になるので、その辺が非常に難しい。今、インクルーシブ教育 ということ言われているが、その辺の見きわめ、保護者の話をよく聞き ながらどう教育していくか、いわゆる支援教室と普通教室との時間配分、 そういうこともいろいろ勘案していただき、特にこういう差別の解消法が 出たから急にそちらにシフトするということが問題が大きいと思うので、 保護者の意向も聞きながら、できるだけ子供たちの将来にとってどうかと いうことを考えていただきたい。
佐野教育長	本市では、この合理的配慮をするために市費をつけていただいているの で、その辺も十分注意しながら進んでいるところである。
阪口市長	この福祉的な分野は次の課題にも関連するので、社会福祉協議会との連 携した福祉教育について、説明をお願いしたい。
学校教育課長	社会福祉協議会と連携し、市内の小・中学校で認知症サポーターの養成 講座の実施を進めている。内容としては、認知症についての映像資料等を 使用しながら認知症を理解し、児童生徒が実際の生活と照らし合わせど うなサポートが必要かを学ぶ機会を設定している。
吉村委員	子供たちが認知症について理解すること、やはり子供は感受性が非常に 鋭いので、いつもの遊びなどで来てくれているボランティアの方々ど こが違うのかということに気づいてくれたら子供たちは考えて行動できる。 今後の高齢化社会の中で、子供たちも一翼を担えることが非常に大切であ ると思うので、ボランティアの方たちも協力していただき、気づけること を心がけて教育できたらよいと思う。
西中委員	認知サポーターの講習会は、中学校でもやっているのか。
学校教育課長	全ての学校ではないが、社会福祉協議会の協力を得ながら今後全校に広 げていきたいと思う。
西中委員	全校やって貰えたらいいと思う。
阪口市長	車椅子体験などの取組みもしているのか。この前、視覚障害者で駅の転 落事故があった。これは国交省のソフト面、ハード面のいろいろな対策が 必要であるが、ソフト面で視力障害者の方がいたら手を添えてあげると か、声をかけてあげるとか、そういう見守るということが、学校だけでは なく地域住民、いろいろな各種団体にも、広げていかないといけない。地 域共生社会や、地域包括ケアという時代になってきているが、取り組みは どうか。
学校教育課長	車椅子体験については、社会福祉協議会など他の団体も含め協力いた だきながらたくさんの方の車椅子を貸し出していただき実際に体験している。 またアイマスク体験といい、目の見えない状況にして実際に歩いてみて、怖 さを体験する中で、腕を持たせてもらうことにより歩きやすいということ を体験できる。そういう実体験に基づいた福祉体験学習を現在学校で進め ており、視覚障害者の方の事故もあるので、そういう方に対して気軽に声 をかけてお手伝い、サポートしていける子供たちをこれから高石市として は育てていきたいと考えており今後も進めていきたい。
阪口市長	学力向上、英語教育について議論し、福祉やインクルーシブについても 話し合った。勉強を頑張る優秀な子も育ててほしいとは思いますが、やはり 心の優しく、支援がいる方に配慮できる子供が成人になってもらいたいと

	<p>思う。</p> <p>このインクルーシブ教育にしろ、福祉教育にしろ、ぜひ教育委員会に頑張ってもらいたいと思ひ、様々な意見をいただいたが、参考にして頑張ってもらいたい。</p> <p>続けて、防災の教育について説明をお願いしたい。</p>
学校教育課長	<p>防災教育については、まず、11月に実施している高石市挙げての総合避難訓練に小・中学校、幼稚園も含めて参加している。学校においては、年間指導計画に基づいて理科や社会科の授業などで自然災害のメカニズムや地域の自然環境を学ぶことにより、災害に対する理解を深める学習を進めている。</p> <p>また、火災発生時、地震発生時、不審者侵入時などを想定し避難訓練を実施し、いざというときに適切な行動がとれるように災害等の非常時に対応する能力を高める活動を行っている。</p> <p>特に、津波に対する避難としては、安全な位置まで逃げるといふ先ほど申しあげた水平移動中心の訓練に参加しているところである。</p> <p>さらに、危機管理課とも連携し、防災教育講演会に神戸学院大学の前林教授を招き、大規模災害時に避難所となる学校において、教職員が地域の一員としてどのような役割を果たすことができるかということについて講義していただき、非常に参考になった。</p>
吉村委員	<p>非常に一生懸命やっただき総合避難訓練、津波訓練、参加率がよく非常にうれしい。日ごろから避難路をはっきりと自覚しているのはいいことであると思ふが、最近、避難訓練に何回か参加し、避難経路が毎回同じであるので、参加者としては、もしその道が使えなかった場合どう避難するのかと疑問に思ふ。今後は複数の避難路も考えていかなければならないと思ふが、学校によっては複数のルートを持っている学校もある聞いているので、その辺の避難ルート、副避難ルートも考えていかなければならないと思ふ。高石市も市街地整備が進んでおり、広い道もできているので、一度避難ルートについて見直してもよいと思ふので、ぜひ検討していただきたい。</p>
阪口市長	<p>毎年訓練をやっているので、いただいた意見をまた事務局から防災担当に、教育委員会を通じてしっかり伝えていただきたいと思ふ。</p> <p>ただ、この訓練そのものが、学校も一緒になって続けていくことは大事であると思ふ。この前、また南海トラフ地震の確率が上がり70%から80%になったので、そういう面も十分に念頭に置きながら引き続き頑張ってもらいたい。</p> <p>続けて、高石ふるさと村キャンプ場の廃止の考え方について説明をお願いしたい。</p>
社会教育課長	<p>平成6年7月に和歌山県清水町、現在の有田川町に開設した高石市ふるさと村キャンプ場については、これまで多くの市民にご利用いただいたが、平成31年3月31日をもって地権者との賃貸借契約が期間満了を迎えるため、それに伴い閉村させていただきたいと考えている。</p> <p>非常に残念ではあるが、利用者が年々減少しており、また施設の老朽化に伴い、今後、施設を継続した場合の経費等を考えると、今回、地権者との賃貸借契約の期間満了を機に閉村するのがよいと判断し、これまで有田川町や地権者と交渉を重ねてきた次第である。</p> <p>ふるさと村の閉村により、本市と有田川町の友好関係が停滞することがないよう、本市市民が有田川町のキャンプ施設等を利用する場合の補助の実施や、両市町の小学校児童の交流事業の実施等、有田川町との友好都市交流提携に基づき文化・スポーツ・教育など、さまざまな分野で交流を進めていきたいと考えている。</p>
西中委員	<p>教育委員会定例会でも有田川町のキャンプ場の施設の撤去に伴う市債の予算についての説明があったが、高石市にはない環境で、いろいろな子ども会活動など様々な形で使用しているので存続したいが、諸般の事情を聞</p>

	くと閉村もやむを得ないと思う。しかし、今まで有田川町と培ってきた友好関係について、今後とも何らかの形で継続していただけたらと思うが、何か案はあるのか。
社会教育課長	有田川町とは友好都市交流提携ということで、これまでもさまざまな交流をしている。今回キャンプ場については無くなるが、市民にとってのキャンプ場の利用等について継続して考えていきたい。
西中委員	友好都市としての形は継続していくということか。
教育部長	有田川町と友好都市提携については現在も継続させていただいている。 有田川町のふるさと村を諸般の事情で閉村するが、当然、閉村になると本市市民が数は減ったものの、利用される市民の方がいるので、利用の方策についてどうするのか。また、新たな友好促進策があるのかなのか、これらを含め、今まで以上に積極的に友好都市の促進策については有田川町と相談をしながら進めていきたい。
阪口市長	グラフを改めて見ると、確かにかなり利用者が減っているのは如実に出ており、初期投資は別としてランニングコストが約1,000万円弱等、最終的な費用対効果の判断であると思うが、一方で、友好提携について、私もぜひ続けていきたいと思っている。 ふるさと納税でも何か返礼品でお世話になっているのか。
総合政策課長	ミカン等、有田川町の農産物を入れている。
阪口市長	本市はお世話になるばかりであるので、逆に我々も協力はしていかなければならない。キャンプ場については町営のキャンプ場があると思うので、そこをできるだけ本市もどんどんPRし市民利用を図ったり、今後も交流は教育委員会のみならず、市長部局でもよく考え友好提携を続けてほしいと思う。 続いて、市民文化会館、図書館の関係について説明をお願いしたい。
社会教育課長	本市では、平成28年3月にまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、その重点目標の一つとして、子供を産み育てやすい環境を整えることを重要施策と位置づけ、アプラたかいし3階に子育てウェルカムステーション「ハグッド」がオープンしたところである。 現在、オープンして1年が経過し、オープン以来の総利用者数ですが、5万人を突破している。多くの子育て世代に利用いただき、おかげさまで依然好調に推移している。 また、市民文化会館については、ハグッドと連携し世界の遊び体験フェアなど、夏休みや、冬休み期間中に子供・ファミリー向けのイベントを数多く開催している。 また、図書館については、平成28年度から指定管理者制度を導入し、3階アプラホールや、ハグッドとの連携を進め、平成29年度については、エントランス部分のフロア改修を行った。このように魅力アップに取り組んでいる。 平成30年度は、平成31年度から5年間の指定管理者を選定する時期となっている。現在の取り組みに加えて図書館の概念にとらわれず、市民の誰もが訪れやすいような居場所づくりにつながるさまざまな取り組みを進めていきたいと考えている。 図書館においては、現在、絵本の読み聞かせ会や、ワークショップも随時開催している。 このようにアプラホールや、ハグッド、またハローワークなど、いろんな各種連携の事業を今後もさらに進めて、各種イベントでどんどんPRをし、魅力づくりにつながるさまざまな取り組みを行っていきたいと考えている。
西中委員	私もいろんな行事に参加し、いつも廊下から見ているが、非常にいつも盛況で笑顔にあふれた子供たちが生き生きと活動しているのを見て、非常によい施設であると思っている。ぜひ高石市の子育ての拠点として、保育など、非常に良好な施設として、この施設の魅力を大いに発信していただ



	けたらありがたい。
阪口市長	ハグッドについては調子がよいが、図書館はいかがか。従前に比べて利用者は増加しているのか。 あわせて、学校図書との連携によって司書教諭の確保もしていこうという議論もあったと思うが、その辺はいかがか。
社会教育課長	図書館については、先ほどお伝えしたように平成28年度から指定管理者制度を導入し、その結果、直近では平成27年度と比較し、来館者数が133%と、33%増加している。また、実際の本の貸し出し数についても、当然、指定管理により開館時間や開館日数が増えている要素もあるが、市民からは大変よくなったという意見をおおむねいただいている。
阪口市長	学校図書との連携についてはいかがか。
学校教育課長	図書館司書も市費にて配置しており、司書等の連携については団体貸し出し等を積極的に市立図書館も受け入れていただき協力いただいている。また、学校向けに夏休み等にチラシ等を配布させていただき、読書感想文の書き方講習会を複数回開催し、非常にたくさんの子供たちがお世話になっている、指導いただいているという事実もあるので、今後とも学校図書館と市立図書館の連携をますます深めていきたいと考えている。
阪口市長	夏季休業中などの学校が閉まっているときにもアプラの図書館はあいているので、子供たちにはどんどん利用してほしいと思う。学校との連携を特に夏休みはしっかりと頑張っていたらどうかと思うので、よろしくお願ひしたい。 続いて、総合型地域スポーツクラブについて説明をお願いしたい。
社会教育課長	総合型地域スポーツクラブであるが、運動・スポーツ活動を通じて健康増進、青少年の健全育成やスポーツ振興に寄与する生涯スポーツ社会の実現と地域コミュニティの活性化に資することを目的として、現在、3月の設立に向けて規約の作成、体験型イベントの実施などの取り組みを進めている状況である。 種目については、現在のところ、バドミントンと卓球の2種目での立ち上げということで準備を進めている状況であるが、将来的には子供から高齢者まで幅広い年代の方が気軽に参加できる総合型地域スポーツクラブを目指していきたいと考えている。
西中委員	この総合型地域スポーツクラブとは少し外れるかもしれないが、高石市がまちづくりの柱にしている健幸都市高石、この中で特にうちの自治会でもいわゆる百歳いきいき体操やウォーク、グラウンドゴルフなど定期的に行っているわけであるが、高齢者の方が中心となったおり非常に意義があることではないかと思う。 したがって、卓球、バドミントンに限らず、最近、特に身障者を対象にしたボッチャというのを体育館でもやっておられるが、これが非常にパラリンピックの正式種目にもなっておりますので、そのような誰でも親しんでできるものを広めていただけたらと思う。特殊なクラブではなく、誰でも親しんで参加できるような開かれたクラブにしていきたい。
吉村委員	健康フェスティバルでも参加者が非常に多く、健康に関する関心が市民は非常に高いのがよくわかるが、例として特定健診と同じように参加者が固定してしまわないように工夫が必要であると思う。特定健診はほとんど受ける方が固定化していて、新規の方がなかなか来ないというのがあるので、いかに市民が興味を持てるイベントを開催していくかがやはり大切であると思う。アイデアマンの市長にぜひ何かアイデアを出していただいて、誰でも参加したいようなイベントを計画していただけたらと思う。
阪口市長	今、吉村委員もおっしゃっていただき、西中委員もおっしゃっていただいて、私は非常にポイントをついていると思うのでぜひこれは教育委員会でも留意いただきたいと思います。先ほどのインクルーシブ教育の話のときは

	<p>申し上げなかったが、カモンたかいしにはボッチャのコートがある。ボッチャというのはどういうふうに競技するのかみんなご存知か。今ちょうど平昌オリンピックをやっており、基本的にはカーリングと一緒である。滑らすのか投げるかという、投げるのも遠いところに投げたり、近いところに投げたり、できるだけ最初に当てた的に近いところが勝ちであるという競技である。私も知らなかったが、カモンたかいしに行ったとき、吉見君というボッチャで全国3位の子が練習をやっておられ、吉見君に教えてもらった。私はまさに総合型スポーツクラブというのであれば、子供から高齢者までということもあるけれども、当然障害者も含めて私は一緒に健常者も障害者もできるスポーツ、まさにボッチャは、楽しくてよいと思う。だから、ぜひバドミントン、卓球に加えて幅広く進めてほしいと思う。そして、先ほど吉村委員おっしゃった無関心層への働きかけも幅広く頑張してほしいと思う。</p>
阪口市長	<p>最後にもう一点、高石市史の編纂について説明をお願いしたい。</p>
社会教育課長	<p>高石市史については、市制施行された昭和41年から平成28年までの約50年間の高石市の歩みを写真やグラフがあり、年表などを入れた市民の方にとってわかりやすく親しみやすい内容で作成する予定としており、平成30年度中の完成を目指している状況である。</p>
西中委員	<p>改訂版をつくるのは大賛成で、絵やグラフなどいろいろなものを入れて読みやすくしていただくようお願いしたい。</p>
吉村委員	<p>最近高石市に転入してきた近所のお年寄りの方が、高石市の史跡を回りたいが何かよいガイドブックがないかとたずねられた。そういうときに市史や、50周年のパンフレットがあるので、その辺を参考にされたらどうかとお伝えしたのだが、西中委員がおっしゃられるようにわかりやすいガイドブック的なものはぜひ必要であると思う。</p>
社会教育課長	<p>史跡マップというか、たまに市民の方が窓口に来られ、そういうのがあるかという問い合わせがあった場合、一応お出しできる冊子はつくっております。ただ、それほど浸透していないのかもしれないので、いろんな形で浸透できるようにPRしていきたいと考えている。</p>
阪口市長	<p>私から1点だけ申し上げたいのは、昭和51年からの記録ということ言えば、ちょうど今年の夏ごろに完成すると思うが、芦田川のふるさと広場が完成する。これはもともと昭和57年の大水害があり、当時は浅野市長でしたが、寺田市長に変わり、そして私に変わってここまで整備をして完成する。市にとって非常に重大な課題を、もちろん国や大阪府の力を得て克服してきたという歴史もあるので、この辺も十分よく勘案して作成してほしいと思う。</p>
西村委員	<p>今日は幸いというか、重点課題に上がっていないが、やはり大きな問題としていじめの問題がある。高石のいじめの現状、何か重大な事案がないかどうかということと、実際にどういう取り組みをされているのかを最後になるが、貴重な時間に確認をさせていただきたいと思う。</p>
学校教育課長	<p>いじめについては、高石市のいじめ防止基本方針や各学校におけるいじめ防止基本方針に基づいて未然防止、これは子供たちの仲間づくりなども含めてやっており、また早期発見、早期対応、また早期に解消できるように取り組みを進めているところである。</p> <p>いじめの認知については、法律ができ、いじめの定義に基づいて些細な事象でも積極的に認知していこうと各学校に指導していることから、認知件数については増加しております。増加傾向にあるが、いわゆる重大事態に至るようないじめについては、現在、本市においては生起していないところである。</p>
西村委員	<p>件数が増えているということであるが、いじめが小さな芽で摘み取れるというか、埋もれないような状態になっているということで、今後も油断することなく取り組んでいただきたいと思います。</p>
西中委員	<p>いじめ問題については、この年末、私たちの生活を考える会を開いてい</p>

	<p>ただき、小・中学校の児童会・生徒会の役員が集まって討議していただいた。私も3年ぐらい前からずっと参加させていただいているが、すごく議論をして、市長も来ていただいているが、非常に子供たちの認識が深まって非常にいい機会であると思うので、今後もぜひ重点的にやっていただけたらと思う。</p>
阪口市長	<p>これもさきほど申し上げたが、インクルーシブ教育にしる、福祉教育にしる、思いやりということにもつながると思うので、ぜひそういったことも含めていじめ対策についても頑張ってもらいたいと思う。</p> <p>本日示された重点課題等については、皆様のご意見を参考に今後取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>それでは閉会とする。</p>